



1

言語活動

目的・場面
・状況を明確に！

「思考・判断・表現」すること、「知識・技能」を活用することが求められる。「主体的に外国語を学ぼうとする態度」も育成される。

実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を意味し、言語材料について理解したり練習したりするための活動とは区別されている。

2

話すこと(やり取り)

ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

ウ 自分や相手のこと及び身の回りに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したりして、伝えあうことができる。

3

Small Talk

高学年の新教材で設定されている活動である。2時間に1回程度、**帯活動**である。

あるテーマのもと、指導者のまとめた話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。また、5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行う。

児童どうしがやり取りを行うためにはそれなりの言葉を使う練習を意識的に行う必要がある。

4

目的

既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図る

1.対話の続け方を指導する

対話の開始 Hello How are you?

繰り返し (I went to Tokyo.) You went to Tokyo.

一言感想 That's good. That's nice. Really?

That sounds good.

確かめ Pardon? Once more, please.

さらに質問 (I like fruits.) What fruits do you like?

対話の終了 Nice talking to you. /You, too.

(『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』 p. 84)

5

話すこと【発表】

ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

イ 自分のことについて伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や表現を用いて話すことができるようにする。

6

教科書カリキュラムへの危惧
インプットが少ない段階でのアウトプットの強要

emergent

(第一言語習得) (外国語教育)

7

教科書カリキュラムへの危惧
限られた言語活動
(目的、場面、状況でのcontext作り)

emergent

(ESL) (EFL)

8

ことばは人を通じて
意味のある文脈の中から
ゆっくり育っていく
(ソビエト時代の心理学者、ビゴツキー)

9

意味のある文脈
(meaningful context)に
おいてのみ言語習
得は可能である。

10